

地域活動で高齢者支援

久御山町社会福祉協議会が昨年度から実施する「まちのお助け隊養成講座」の修了者たちが、地域で活動を始めた。高齢者の生活支援などを目的とした同講座には、年配の受講者が多く、同世代で支え合ったり、交流の輪を広げたりしている。（杉山奈々）

町の公共施設の会議 室。70代前後の男女6人



洗濯物をたたむ修了者たち。手際よく作業し、合間に談笑する（久御山町森・クロスピアくみやま）

シャツにアイロンをかけていた。作業はてきぱき進めながら、時に話し笑う。和やかな雰囲気だ。「働くこと」をきっかけに人々がつながり、見守りあう地域をつくりたいと、町内のクリーニング業者が企画した。参加者を募る際に声をかけた同講座の修了者が、さらに近隣の高齢者も誘って今年6月から、7人で週1回活動している。

業者に預けられた医療施設の洗濯物を1袋（1人分）仕上げると60円が支払われる。修了者の同町東一口の黒島豊子さん（69）は「終わった後みんなでランチをするのが楽しみ。作業の合間の雑談で仲が深まります」と

ごみ捨て、電球交換、食事世話



本年度の「まちのお助け隊養成講座」でグループワークを行う受講者ら（久御山町島田・地域福祉センター）

話す。「まちのお助け隊養成講座」は、高齢者の生活を支える人を増やすとともに、本人の介護予防や生きがいづくりにもつながりたいと始められた。町社協が2020年に行ったケアマネジャーへのアンケートでは、「ごみ出しや買い物だけ頼みたいという利用者もいるが、手が回らない」「仏壇の

「昨年度は50代、80代の19人が受講した。修了者たちはそれぞれ、高齢者宅のごみ捨て、電球交換といった支援活動を始めています。また、地元のNPO法人が運営する地域交流を兼ねた食堂で、食

花の水替えなど、介護保険の制度内ではできないことがある」などの声が上がった。一方で、「何でも手伝えるけれど、困っている人がどこにいるのか分からない」と話す地域住民もいたといい、こうした状況を受けて同講座を開いた。

行事りのボランティア活動も行っている。

いまどき
やましろ

10月下旬から始まった本年度の講座には、40代、70代の18人が参加している。同町栄の池上須美夫さん（67）は、昨年度の修了者が作った「お助け隊支援者募集」のチラシがきっかけで受講したという。「今は自分でできなくても、将来、できなくなることもある。身近なところで助け合える地域をつくりたい」と語った。

講座は昨年度、本年度とも定員に達し、順調なスタートを切っている。町社協職員は「地域の見守りや協力があれば、もっと安心して生活できる。現在は高齢の受講者が多いが、幅広い世代の人が参加する講座になるよう工夫していきたい」と話した。